FOCUS

高齢者の「治療計画＆補綴設計」

超高齢社会――「安心で豊かなシニアライフ」を過ごすための歯科治療を考える

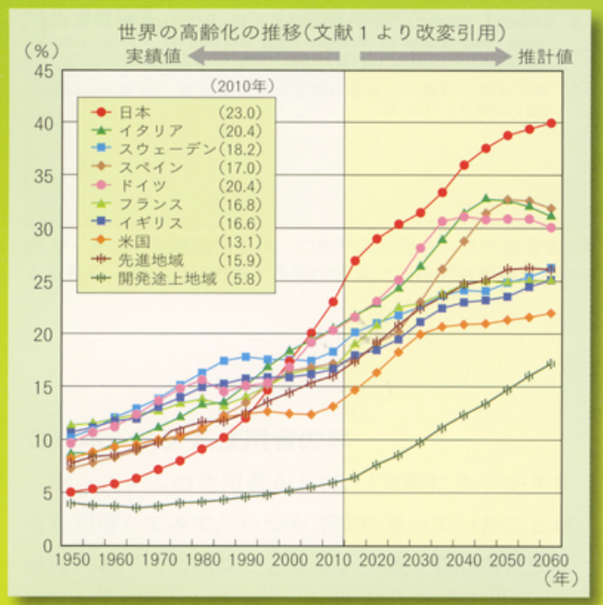
Consider the Treatment Plan and Prosthesis Design of Elderly Person

園田哲也

福岡県開業　園田歯科医院
連絡先：〒836-0032 福岡県大牟田市新地町17-5

Tetsuya Sonoda

キーワード：超高齢社会，口腔ケア，治療計画，補綴設計，訪問歯科診療，総義歯，インプラント



はじめに

日本は，世界のどの国も経験したことのない超高齢社会を迎えている．平成25年1月の総務省統計局によると，65歳以上の高齢者人口は約3,057万人で総人口に占める割合は24.0%と発表された[1,2]．一部の都心を除き，市町村では30%を超えるところも多く，この現状を踏まえた歯科治療が求められる．

筆者が開業している福岡県大牟田市は，かつて三井三池炭鉱があったところで，街には歴史ある文化財が存在し，現在も炭鉱時代に勃興したさまざまな産業がある．しかしながら，1997年の炭鉱閉山後，多くの労働者が流出したため，早くから高齢化が進み，高齢化率は，30.5%で人口10万人以上の都市のなかでは全国有数となっている．

その状況下，在宅医療の需要は高く，筆者は12年前から訪問歯科診療に従事している．筆者のクリニックは一般診療を中心としており，訪問歯科診療は専門ではないが，来院していた患者の要介護への移行や介護施設等からの依頼により，自然に患者数が増加した．このような傾向は高齢化が進む都市や地域では，今後，多くの医院で起こる可能性がある．

われわれ歯科医師は，超高齢社会の現在，高齢者の患者に対してどのようにアプローチをしていけばよいのであろうか？

「口腔ケア，口腔リハビリテーション」にはフォーカスが多く当てられているが，実際の「歯科での治療面や補綴設計」に関する具体的な報告は少ない．そこで，本稿では，「高齢者～要介護」のさまざまな諸事情を考察したうえで，「訪問歯科診療，総義歯，インプラント」の3つをキーワードに，それらについて検討してみたい．

高齢者についての考察

日本での高齢者は，「65～74歳までを前期高齢者，75歳以上を後期高齢者」に区分されている[1,3]．しかし，社会での現状は，平均寿命が延伸を続けるなか，65歳を超えても元気であると認識し，就労や社会参加活動を通じて，現役で活躍している人が多くなっている．高齢者に対する観念は多様であり，その年齢幅は広い．そのため，高齢者を一律に区切ってとらえることは，実態にそぐわなくなってきている．本稿では，広義に解釈して述べさせていただく．

健康高齢者の間は，下記のような多くのプラス面があり，われわれ歯科医師は，患者のニーズに応える適確な治療を提供すると同時に，その後，訪れる「減退期，終末期」への対応も考えておかねばならない．

1）高齢者の生活面

①健康高齢者，positive な側面[1,3]

＊男女とも健康増進や，アンチエイジング，QOL向上の意欲が高い

とくに女性の高齢者は，何歳までも美しくいたいという願望が強い．

＊高齢者の就業の意識

高齢になっても就業意欲が高いことが示された．

60歳以上の就業者に対し，何歳まで働きたいか？を尋ねたところ，「65歳までは，19.2%，70歳までは26.1%，75歳までは10.4%，働けるうちはいつまでもが，39.9%」と報告された．

＊高齢者の生活観

今後の生活で「毎日の生活を充実させて楽しむこと」に力を入れたい人の割合は，60～69歳は78.1%，70歳以上は84.8%である．そのなかで，おいしく食事ができることは，大きな喜びに繋がる．

＊高齢者の経済状況

高齢者の暮らし向きの調査では，「心配ない」（まったく心配ない＋それほど心配ない）が約7割を占める．世代別では，「65～69歳：70.6%，70～74歳：65%，75～79歳：70.5%，80歳以上：80.0%」といずれも高い割合である．一方，貯蓄の目的は，「病気・介護の備え」が62.3%でもっとも多い．

②減退期～終末期の高齢者，negative な側面

われわれに関係する口腔ケアについてみてみると，将来，介護施設等に入居した場合，自分自身でセルフケアができる間はよいが，「認知症や寝たきり」等に移行した場合に問題が生じる．その時点から，介護職員に口腔ケアを委ねることになるが，施設では，「多種類の薬の摂取，食事，入浴，排泄処理，更衣」等，すべき業務が多く，口腔内清掃にあまり時間をかけられない現状がある．そのため，それまで健康を支えていた「多くの歯やインプラント」は，一転して厄介な存在になることが多い．

口腔内が清掃不良であると，口腔内細菌の温床となり，多発性う蝕，慢性的な歯肉の腫脹を起こし，誤嚥性肺炎等の罹患リスクが高くなる（*図1*）[3～5,11]．

図1a　訪問診療先では，一般診療と別の世界がある．
図1b　口腔清掃不良は，誤嚥性肺炎の罹患率を上げる[3～5]．